

あいサポート・アートとっとり展

だれもが才能の持ち主

あいサポート・アートとっとり展 webmagazine

@羽合ひかり園

東郷池の目の前にある、湯梨浜町の「羽合ひかり園」にうかがいました。毎週金曜日のアート活動の時間に、活動場所の食堂で個性豊かな作家たちが個々の制作にはげんでいました。

平成31年度「あいサポート・アートとっとり展」美術部門で金賞を受賞した、安達さんは個性的で独特なタッチの自画像を描き続けています。ビビッドな色彩も目を引く特徴です。何度も何度も線や色を納得するまで塗り重ねて、作品についての独り言を言いながら、じっくり時間をかけてただ一枚の絵を描いていました。



作家の安達さんの作成風景



森本さんはスケッチブックに人の名前や気に入った言葉、漢字、図形を書き詰めて色を塗るという制作方法で、何ページも集中して描いていました。じっくり見せていただくと、文字と色のスタイリッシュな作品が何ページにもわたって描かれています。森本さんの心の中をのぞいているような、不思議で魅力的な作品がたくさんありました。



作家の森本さんの作成風景





昨年度の美術部門で金賞を受賞した、伊木さんの作品もたくさん仕上がっていました。何度も重ねて描かれた絵画はじっくり見るほどに様々な発見があり、興味をひきます。

「羽合ひかり園」で作成されている作品の中には、「あいサポート・アートとっとり展」では出展規格外の横幅 15m はあるかというような大きな作品もあり、枠にとらわれない自由な制作風景が印象的です。

受賞という結果よりも、個々の感性を美術作品というカタチにする活動をバックアップしていきたいという、「羽合ひかり園」アート担当職員の筒井さん。趣味の写真で、作家たちとの撮影会をするなど、表現の幅を広げる活動もされていました。

講師の野崎先生は、作家たちの作品をより良い形で発表できるような協力の仕方に考えを巡らされており、障がい者と健常者の共同制作のあり方やこれからの活動などについてお話しいただきました。



(左から) 講師の野崎先生、森本さん、担当職員の筒井さん、安達さん

アート活動の場は周りの方々の作家たちを思う、真剣で温かい気持ちに溢れていました。周りの協力があってこそ、個々の力が発揮できます。今年も感性と個性があふれる作品に出会えることを楽しみにしています。